

記念館新聞



福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000

日露戦争における松岡静雄

～桜500本の献木と記念碑～

先月号の「故郷七十年を読む」では、松岡家の7男・静雄が、海軍兵学校を卒業後、軍人となった話を紹介しました。

海戦前には、静雄の心情をつづった長文の手紙を、兄である柳田國男に送っています。

静雄は明治30年(1897)に海軍兵学校を卒業して海軍士官になりました。その後、明治37年2月8日に開戦した日露戦争では、巡洋艦千代田の航海長として従軍しました。仁川沖の海戦で、千代田艦はロシアの軍艦2隻を引きとめる囷役を担い、この重責をめぐりに果たしました。

また、旅順での戦いが終わったあと、長兄の松岡鼎は、居住地である布佐(現千葉県我孫子市布佐)の名家たちと協力し、鎮守竹内神社境内に、桜樹500本の献木と記念碑を建てました(左の写真)。

この献木発起者には、鼎のほかにも、國男と静雄の名前も並んでいます。



日露戦争英文記念碑

※石碑には「IN MEMORY OF THE CONQUEST OVER THE RUSSIANS.」と刻まれている。

名作著書紹介

故郷七十年を 読む



國男は、日露戦争に従軍する静雄について、「新参の大尉で千代田艦の航海長としており、仁川沖の海戦に加わった。千代田が囷になつて湾内にじっとしているので、(中略)二隻が油断している間に、沖から他の日本軍艦がしのんで来て、夜明けに二隻を沈めてしまつた。」と記しています。

この戦いで静雄も功労者となり、金鶏勳章を授与されました。

また、「非常に真面目な一本気の男であった。そのくせずいぶん部下を愛したりしたのだから、一緒に面白く遊んだこともあったのだろう。」と記し、部下思いであった静雄の一面もうかがえます。

記念館販売書籍の案内

石井正己編『柳田國男の故郷七十年』

「故郷七十年を読む」シリーズは、柳田國男の名著『故郷七十年』の内容を紹介しています。現在この本は手に入りづらい状況ですが、『柳田國男の故郷七十年』は、同書を読みやすく面白い話を選び再編集されています。

記念館では新たにこの本の販売をはじめています。ぜひこの機会にお買い求めください。



◆ 収蔵資料紹介 ◆

「奉職履歴」

記念館が所蔵する松岡静雄関係の資料に、「奉職履歴」があります。これは、静雄自らが海軍につとめた記録で、明治28年(1895)から大正8年(1919)までが記されています。主な内容は、静雄の乗艦記録や海外駐留時期、昇進した日の記録です。後年は、海軍兵学校などの教官をつとめていたことや、「日独戦史」の編集を命ぜられたことなどが分かります。すべての行動が記録されているものではありませんが、静雄が海軍の軍人として従事した職務を知ることができる、貴重な資料です。



奉職履歴



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

- ☆開館時間
9時～16時30分
(入館は16時まで)
- ☆休館日
月曜日、祝日の翌日
12月28日～1月4日
- ☆入館料
無料

館日記

文化財防火デーの報告

1月26日は、文化財防火デーです。1月17日、県指定文化財の柳田國男生家や旧神崎郡役所(神崎郡歴史民俗資料館)では、姫路市中消防署による査察が実施されました。文化財の現状や避難経路、資料保管状況について職員と確認を行いました。また、実際に火災があった場合を想定し、初期消火の重要性などの説明を受けました。

一度焼失すると二度と戻ることのない大切な文化財を火災から守るため、日ごろからの防火意識を心掛けたいと思います。



生家入口には啓発看板を設置